

模擬課題

書道史

A 理論と鑑賞（硬筆） 解答の字の良さも採点対象とする。

イ 王羲之の代表的作品名を楷書、行書、草書各一点を挙げなさい。

ロ 楷書古典の代表的作品名と筆者名を北魏から二点、唐から四点を挙げなさい。

ハ 唐の四大家を挙げ、その代表的な作品名を楷書五点、行書一点、合計六点を挙げなさい。

ニ 行書古典の代表的作品名と各筆者名を中国から二点、日本から四点挙げなさい。

ホ 書道史上、代表的な尺牘、書状と各筆者名を三点挙げなさい。

ヘ 三筆、三蹟の代表的漢字作品名と書体を各一点挙げなさい。

ト かな古典の代表的作品名を六点と各筆者名を挙げなさい。筆者名は伝承される、または推定される場合は「伝」「推」を付けること。

鑑賞

別紙作品（写真印刷）の作品名と各筆者名を書きなさい。筆者名は伝承される、または推定される場合には「伝」「推」を付けること。筆者不明の場合は「筆者不明」と書くこと。

書の創造と変遷の作品写真掲載の重点作品から出題。

B 書道用語解説

書道用語（漢字で出題）にふりがなを付け、説明しなさい。
書道用語解説の項目から出題。

指導法

漢字 かな各六字について、字形 点画の誤り 不調和がある。
その部分だけ分かりやすく朱で添削しなさい。解答例参照

C 次の詩句を楷書で半紙に書きなさい。（注）字体は任意

- | | | | |
|---------|----------|----------|----------|
| 1 暮上河陽橋 | 2 落日西山際 | 3 悲風千里来 | 4 行舟緑水前 |
| 5 青山忽已曙 | 6 独往路難尽 | 7 月過北庭寒 | 8 風多雜鼓声 |
| 9 谷暗千旗出 | 10 風煙望五津 | 11 胡霜抃劍花 | 12 海上碧雲断 |

D 次の内容の賞状、感謝状または表彰状を作成しなさい。(B4サイズ)

13. (受賞者) 菊池和子

(成績) 最優秀賞

(本文) あなたは第十八回区内書道展において頭書の成績を収めたのでこれを賞します

(日付) 平成二十九年七月二十日

(発行者) 大台区長 落合清作

14. (受賞者) 尾崎雄次君

(成績) 男子シングルス 優勝

(本文) 君は社内卓球大会において頭書の成績を収めたのでこれを賞します

(日付) 平成三十年十一月十四日

(発行者) 株式会社名神堂社長 小山政臣

15. (受賞者) 鳥羽勝子殿

(成績) 金賞

(本文) あなたは全国読書感想文コンクールにおいて頭書の成績を収めたのでこれを賞します

(日付) 平成三十年十一月三日

(発行者) 中部タイムズ社

16. (受賞者) 第一学年C組 石崎英雄

(成績) 障害物競走第二位

(本文) 三十年代体育大会において頭書の成績を得たのでこれを賞します

(日付) 平成三十年十月五日

(発行者) 明東高等学校長 伊藤恭二

17. (宛名) 高崎貞雄殿

(本文) あなたは本会理事として創立以来その任に精励し本会発展に寄与されました 御退任にあたり記念品を贈り感謝の意を表します

(日付) 平成三十一年四月二十九日
(発行者) 多賀市文化協会 会長 森田利彦

18. (宛名) 一級建築士 関口治夫殿

(本文) あなたは星陵会館建設に際し卓越した技能を発揮され立派に
完成されました竣工式に際し深く感謝の意を表します

(日付) 平成三十一年五月三日
(発行者) 星陵会 会長 花田雄佑

19. (宛名) 茶舗 香緑堂 大崎秀作殿

(成績) 静岡県知事賞

(本文) 貴殿が出品された煎茶幽山かはりは平成三十二年度品評会
に於いて頭書の品質が認められましたのでここに表彰い
たします

(日付) 平成三十二年十一月一日
(発行者) 静岡県茶業振興会 会長 徳永嘉助

20. (宛名) 毎朝新聞川西販売所 太田雅夫殿

(本文) 貴販売所は開所以来千日間無事故無誤配の記録を建てられ
ましたのでここに表彰いたします

(日付) 平成三十三年四月二十五日
(発行者) 毎朝新聞大阪支社長 小野寺 剛

E 次の詩を行書で画仙紙半切に書きなさい

- ・落款を入れなさい 押印は不要
- ・草書は交えてもよい 詩の作者名は不要

朝辞白帝彩雲間 千里江陵一日還 (李白)

昨夜風開露井桃 未央前殿月輪高 (王昌齡)

今夜不知何處宿 平沙萬里絕人煙 (岑参)

青海只今將飲馬 黄河不用更防秋 (高適)

宜陽城下草萋々 澗水東流復向西 (李華)

二十五^五 紘彈夜月 不勝清怨卻飛来 (錢起)

曉月暫飛千樹裏 秋河隔在数峰西 (韓羽)

27.26.25.24.23.22.21.

31.30.29.28.

芳樹無人花自落 春山一路鳥空啼 (李華)
錦城絲管日粉々 半入江風半入雲 (杜甫)
月落烏啼霜滿天 江楓漁火對愁眠 (張繼)
晚來風起花如雪 飛入宮牆不見人 (劉禹錫)

F

別紙写真図版の書譜または十七帖を半紙に臨書しなさい。
4字く6字の配字を指示に従って書くこと、
右上に釈文を硬筆か毛筆細字で記入すること。
釈文は新字体、旧字体のいずれも可とする。

G

次の和歌を半紙に書きなさい。
漢字かな交じり文の書き方でなく、古典的なかな作品とする。
漢字 かなの変換は自由、変体(異体)がなを適宜使用すること。
構成・表現の効果を考えて適宜連綿すること。
和歌の作者名は書かない。落款は入れない

32.

大和には ^{やまと} 鳴きてかくらむ よぶこ鳥

33.

きさの中山 呼びぞ超^こゆなる (高市黒人)
かからむと かねて知りせば ^{おほ}大み船
はてしとまりに しめゆはましを (額田王)

34.

あふみの海 ^み ^{ゆふなみちどり} 夕浪千鳥 ^な 汝が鳴けば
心もしぬに いにしへ思ほゆ (柿本人麿)
※海は「うみ」と読む場合もある

35.

たかまどの 野辺の秋萩 いたづらに
咲きか散るらむ 見る人なしに (笠金村)

36.

み吉野の ^{さは} きさ山にまの 木ぬれには
ここだも騒^さぐ 鳥の声かも (山部赤人)

37.

卯の花も いまだ咲かねば ほととぎす
佐保の山辺に 來^き鳴きとよもす (大伴家持)

38. ひさかたの あまぢは遠し^{とほ} なほなほに

家にかへりて なりおしまさに (山上憶良)

39. みよしのの 山の秋風 さよふけて

故郷寒く^{ふるさと} ころもうつなり (参議雅経)

40. むらさめの 露もまだひぬ まきの葉に

霧たちのぼる 秋のゆふぐれ (寂蓮法師)

H 別紙写真図版の高野切三種又は、関戸本古今集を半紙に臨書しなさい。

かな古筆臨書の原則は 原寸で行どりは変えない。

右上に硬筆か毛筆細字で釈文をひらがなで記入すること。